

マルコの福音書の学びが楽しいものとなるとよいですね。いよいよイエス様の働きが始まります。

1. 宣教の備え (1章12～13節)

- ①荒野に (1:12) バプテスマのヨハネが現れたのも荒野でした (1:4)。イエスは「御霊はイエスをおいやられた」とあるように、御霊に導かれるようにして、荒野に来たのでした。イエスは主なる神ご自身ですから、そのまま宣教地に行かれても良いはずですが、しかし、主なる御霊の促しは荒野でした。人間イエスにも、備えが必要であったのでしょう。
- ②サタン誘惑 (1:13) イエスはその荒野に40日間いました。マタイの福音書によるとその期間、イエス様は断食をしていました。人間が生存するのにぎりぎりの断食です。そこにサタンは現れたのです。「サタンの誘惑を受けられた」との表現は、これを敢えて受けられたということでしょう。並行記事 (マタイ4章) によると、サタンは空腹感、名誉心などをついて、イエスを誘惑したのです。
- ③御使いたちが仕え この書にはありませんが、主は誘惑に対し御言葉をもって退けられました。御言葉を心のうちに蓄えることは、サタンの誘惑に対抗するためにも必要です。さて、荒野というところは野の獣がいるところでした。羊のようなおとなしい動物というよりも、ライオンのような猛々しい動物のことをさしているのでしょう。しかし、主には御使いが仕え、さながら天国のようでありました。

2. 宣教の開始 (1章14節)

- ①ヨハネの逮捕 国主ヘロデは妻ヘロデヤのことで、ヨハネから責められていました。ヨハネは人間の道に反する王に、勇気をもってメッセージを送ったのです (ルカの福音書3:19)。これに対して、王はヨハネを逮捕して牢に閉じ込めました。悪に悪を加えるだけでありました。それにしても、主の宣教の道備えのために来たバプテスマのヨハネの働きは鮮烈でありました。
- ②イエスはガリラヤに そんな背景を受けて、主イエスの宣教が開始されます。ユダヤよりは北に100キロほどのガリラヤにおいてです。「ガリラヤに行き」とありますが、9節にもあるように、そこはイエスが育った地です。とはいえ、ナザレの村ではなく、ガリラヤ湖に近い町においてでした。この地が選ばれたのは摂理理といっても良いでしょう。そこで弟子たちが選ばれていきました。
- ③神の福音 主は備えの期間、荒野において、宣教についての思い巡らしをされ、祈りをされたことでしょう。そして、主が宣べられたのは「神の福音」でありました。福音とは元の言葉でイワンゲリオン、英語ではゴスペルです。神の国の福音こそが、人間に救いをもたらすものでした。この福音を受け入れる者は喜びと幸せをいただくのです。

3. 宣教の言葉 (1章15節)

- ①時は満ち すべてに時がある (伝道者の書3章) わけですが、主イエスは「時は満ちた」と宣教の一声を発せられたのです。それはイエスご自身が宣教を開始する時でありましたし、民がその宣教を受け取る時でもありました。また、それは人類にとっても時でありました。福音が届けられるという祝福の時であり、それでもなおそっぽを向いて神に反抗する時でもあるのです。
- ②神の国が近く 主は叫ばれます。「神の国は近くなった」と。主イエスが来られて、福音が宣べ伝えられたということは、そこに神の国がそこにあるともいえましょう。主イエスとともにあるならば、神の国を生きることでありましょう。もう一方では罪の世に続くなかにあつて、世の終わりとともに始まる神の国ということも暗示されているのでしょう。
- ③福音を信じる 民がなすべきは悔い改めと福音信仰です。「悔い改め」とは方向転換です。サタンが喜ぶ道に進むことから、神の喜ばれる道に方向を変えて歩みだすことです。もちろん、具体的な罪からの決別も大切です。「悔い改めて、福音を信じなさい！」という宣教メッセージはどの時代にあつても共通です。福音は主イエスが十字架で死に、復活されて明確になるものでした。

【結論】 イエス様が荒野でサタンの誘惑にあわれた40日は、私たちの人生の縮図です。試練に次ぐ試練を送られている方。イエス様は試練を味わわれたので、よくそれを知ってくださっています。自己中心で、欲望の渦巻きのなかに生きる私たちにサタンは巧みに誘ってきます。もしかすると、その渦の中に巻き込まれて抜け出せずに苦しんでいる人がいるかもしれません。難しいのは、そこには楽しさが混じっているのです、そこから出ようとは思わない自分がいるからです。そんな複雑な気持ちについても主はご存知です。そこで、主は言われます。「時は満ちた！」と。「〇〇よ。お前のつらさ、難しさはわかるよ。でも、いつまでもそこにいるわけにはいかないだろう。今こそ、その時だ。そこから出て、方向転換しなさい。神の国は近づいているのだよ。福音を信じて進みなさい」と勧めてくださっています。ルターは落雷の危険の中で修道士になることを決心し、塔の体験をして第二の回心をしました。私たちも主に向う時があります。今こそ、主に立ち返り、福音を信じましょう。